

地正純符

549
1
23 ₃₃

0



150 cm

100



SEKISUI JUSHI



200

549
▼
23



遊池上山本門寺記

うきうきとふりゆくには事入るる光陰さしと若
しかりける友とゆりしつらき秋の夕の月見もちりし
まはるや影の夕風もや風はひくありそそ目影も空
しちかるの如きの長きさよのいそ病もさういほあり
て道途りるものも山ありてはゆきも杖をさくちりて
ままいぬがやまきり池上山本門寺の杖余るやゆきを
空のあはれなつらむそ人のみせがよとさあねれいれそ生
かすこころのいぢいよのあはれさく月上のすねよりあり
はるをいぢとあしをいぢとあはれあはれ衣におちていぢ

うに田の南は稲葉みのりゆへ山の南へおきくすくかの
をひり葉のたのおゆでいあみえ出つれどもそのみちの
しけねにむしあつくうのねれあすみまきまきた
常は市人の靴をりのきあへるが靴まききはあをねも
まね水のまのこまきとまきりあやしきまきれうこま
むしりのつとえゆでねはあにさうじのたのあけかの
いへわつてすが白雉山をたに見て百舌どうゆけ海はあ
葉のいゆがり朝のたのい出るるあ辰はうこまきとまきの
りーーとまき

出門旭日未升竿万岳催雄風稍寒

藜杖倦来梅駕轡轡中袖手眼涯寬

あつたきん朝はねんをたのたを洗せるはやそねる
まりが谷のたの中へなるあ名藜まがりこまきの雨にたま
だがいゆをなめうわりのまきりうまきとまきのとまきり
ひがををつむい中う朝まきりうまきりうまきりうまきり
中の都とまきりうまきりうまきりうまきりうまきりうまきり
の人とねれあわつてまきりうまきりうまきりうまきりうまきり
かまにまきりうまきりうまきりうまきりうまきりうまきり
石にりのいまきりうまきりうまきりうまきりうまきり
別考あま家をあまきりうまきりうまきりうまきりうまきり

己れ長林山法花とてきりきり守りのつりてきりきり
されどもとて先少くゆくのつらに石壁をよそ七字の
影月をきりきりぬらん地の上のきりきり
と地の上のきりきりぬらん地の上のきりきり
にる間米ひきりきりきりきりきりきりきりきり
このちるなるきりきりきりきりきりきりきりきり
よのちるなるきりきりきりきりきりきりきりきり

間米村邊塗秋霜蹤滑九十九箇難

兼籃攀凹凸

まことされきりきりきりきりきりきりきりきり

秋もとちるなるきりきりきりきりきりきりきりきり
は遠崖をよそきりきりきりきりきりきりきりきり
のはに坂つりて上れの本堂のはにづが本堂の坂の上
あつくりの坂の下につり回廊長階をきりきりきりきり
おぼのた系ありきりきりきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
中に塔をよそきりきりきりきりきりきりきりきり
原をよそきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
曾馮延山開這邊別傳一派示隨縁

松園池上水何港方碑都着妙法蓮。
地こころおせまの野月塔塔石碑にもりぐく
はけり門をかりておよび御師を志のけり教也をり
けは法蓮をせしやいすおのく夕土の世のせしと見る先
御師を志のかりて見るいふこは床の下長日くわとぬき
て御多に上卜つさざりしとぬし火まの海いささいけり
ふぐくた御師を志とせりくげりけりくわすりてえんた
見るれどよこにこがわりと堂中月堂上人の遺像を
おあかり御師を志とせりくげりくわすりてえんた
いあふと門のんの茶屋にありてちかすてしおわき

玉のころに水むけりておわきふあきたどりゆるの
廟茶にもまきしおわきくわすりてえんた
三月おんやけの供とありて茶室里御おけ地より
おわきくわすりてえんた
きたられぬしとありし茶室の御おけ地より
らざりぬしとありしとありしとありしとありしとありし
乃こされしとありしとありしとありしとありしとありし
おんてくしとありしとありしとありしとありしとありし
のちありて

禪天磨_レね七_レ文字に_レち_レ御
す_レ出_レ也_レ門_レお_レけ_レり_レ石_レ極_レ七_レふ_レん_レ十六_レこ_レり_レ日_レ蓮
宗_レも_レた_レは_レ池_レ影_レを_レき_レい_レ七_レ字_レを_レう_レる_レふ_レり_レ切_レ長
き_レる_レわ_レれ_レど_レい_レ由_レ来_レを_レ疑_レし_レ一_レ指_レと_レも_レ之_レも_レ又
む_レけ_レん_レ之_レ内_レの_レ法_レ則_レを_レい_レこ_レ圓_レお_レの_レ中_レに_レま_レる_レも_レが_レま
ら_レ水_レ内_レの_レも_レの_レを_レく_レけ_レい_レし_レし_レん_レや

祖師堂吟並序

壬子之秋偶遊池上山本門寺上祖師
堂見日蓮上人遺像緋服紺巾威風凜
々于玉室內也吾聞日蓮者首歸于禪

就_レ蘭_レ漢_レ道_レ隆_レ禪_レ師_レ聽_レ法_レ有_レ年_レ矣_レ一_レ時_レ有_レ
自_レ悟_レ感_レ察_レ台_レ流_レ要_レ訣_レ別_レ建_レ一_レ派_レ倒_レ破_レ他_レ
宗_レ是_レ則_レ爲_レ弘_レ法_レ世_レ之_レ方_レ便_レ而_レ結_レ緣_レ勸_レ
導_レ之_レ妙_レ謀_レ也_レ雖_レ然_レ生_レ未_レ法_レ者_レ緇_レ素_レ皆_レ
尊_レ敬_レ七_レ字_レ顯_レ号_レ假_レ不_レ信_レ弥_レ陀_レ号_レ到_レ論_レ
法_レ由_レ抱_レ歎_レ何_レ哉_レ余_レ嘗_レ少_レ時_レ祖_レ母_レ大_レ尼_レ
歸_レ仰_レ此_レ宗_レ甚_レ矣_レ罹_レ疾_レ臨_レ命_レ終_レ期_レ當_レ山_レ
嚮_レ上_レ人_レ未_レ結_レ坐_レ枕_レ上_レ導_レ示_レ以_レ六_レ字_レ佛_レ

辨別妄誦語乃勸之曰凡弥陀号平
 日禁唱所以者非只壓他尊我人間
 常不免濁塵中以穢垢舌叨誦佛名
 其罪不輕故令七字類字教唱之矣
 七字乃佛号也若人至入往生門依准
 一口現唱佛号須除念及重業直到
 安穩覺路也餘說法中要語余在于
 側祖維聞之哀哭不耐迷心其祥不
 一願身底而己按台派人唱一心觀佛

亦合此說歟遂不得喋口述一偈
 懷去

租師心印本維玄觀未法因破教禪
 今世廢愚難識得一源分濁數流川

つお妙皮石とるま名にすん人...年

飯とりの王にれより小川の本居にうらうらと
 茶店をあらゆくにのり井しゆらぶとよこらとらと大井
 村のあらうにまじり杖とまじりやまむ大井のうらと
 どれすの一里ごうと杖のまじりの本の本にうらとまじり

日しひらけりてゆるぎなきまきえかき阿のふる田のあり
て中州の畔にけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
あふけふもみらるるえやけりけりけりけりけりけりけり
おのの遠村の上げまきり自然のむねのちのちのちのち
されきやあつきののちのちのちのちのちのちのちのちのち
またあつきののちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
のけいとのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
おのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
るまめにあつきののちのちのちのちのちのちのちのちのち

客として右ののちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
惣房の遠村の上げまきり自然のむねのちのちのちのち
のちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
ゆのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
遠のちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

坂上踏黄落鈴森鬱有眉層峰吞日脚
渺海送風姿雲沉浮鷗水雪飄宿鷺枝
飽望喜有系木枝款飯進
けのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

ぬれが石川もまた万松山のうらにぬけてくたんとあつ
とやぐくこのつねうしとまらぬやせ中と大勢さうりあ
貴族の荘倉にアうてゐるはさ、蘇我の相成り
古ねち大我治とる扇のうへに源義朝の紫の山の
加藤にうり瑞雲山と新なり

東海濱頭極大龍大龍潜處瑞雲濃
由未排地任屋月静立巨叢聽暮鐘の
ゆにがるつれのもろもて出てゆくにたが
田とるまののまらたあはれとるなりせぬきよら

小室のこのぶらうをほすものにはわきよれとめはれ
よいさうのうのしちたのむらうにわきよれとるもの
つふわきたまひおののにおいには人かたよきとるもの
あつ人のかたのうらうとるものつややくに銀座
のあつとらうのあつとらうのあつとらうのあつとらう

あつとらうのあつとらうのあつとらうのあつとらう
あつとらうのあつとらうのあつとらうのあつとらう
あつとらうのあつとらうのあつとらうのあつとらう
あつとらうのあつとらうのあつとらうのあつとらう

雲間一箇土履頭。羅笠檐中十五州。
遣是大山怪富。謂我疑銀漢白鯨流。

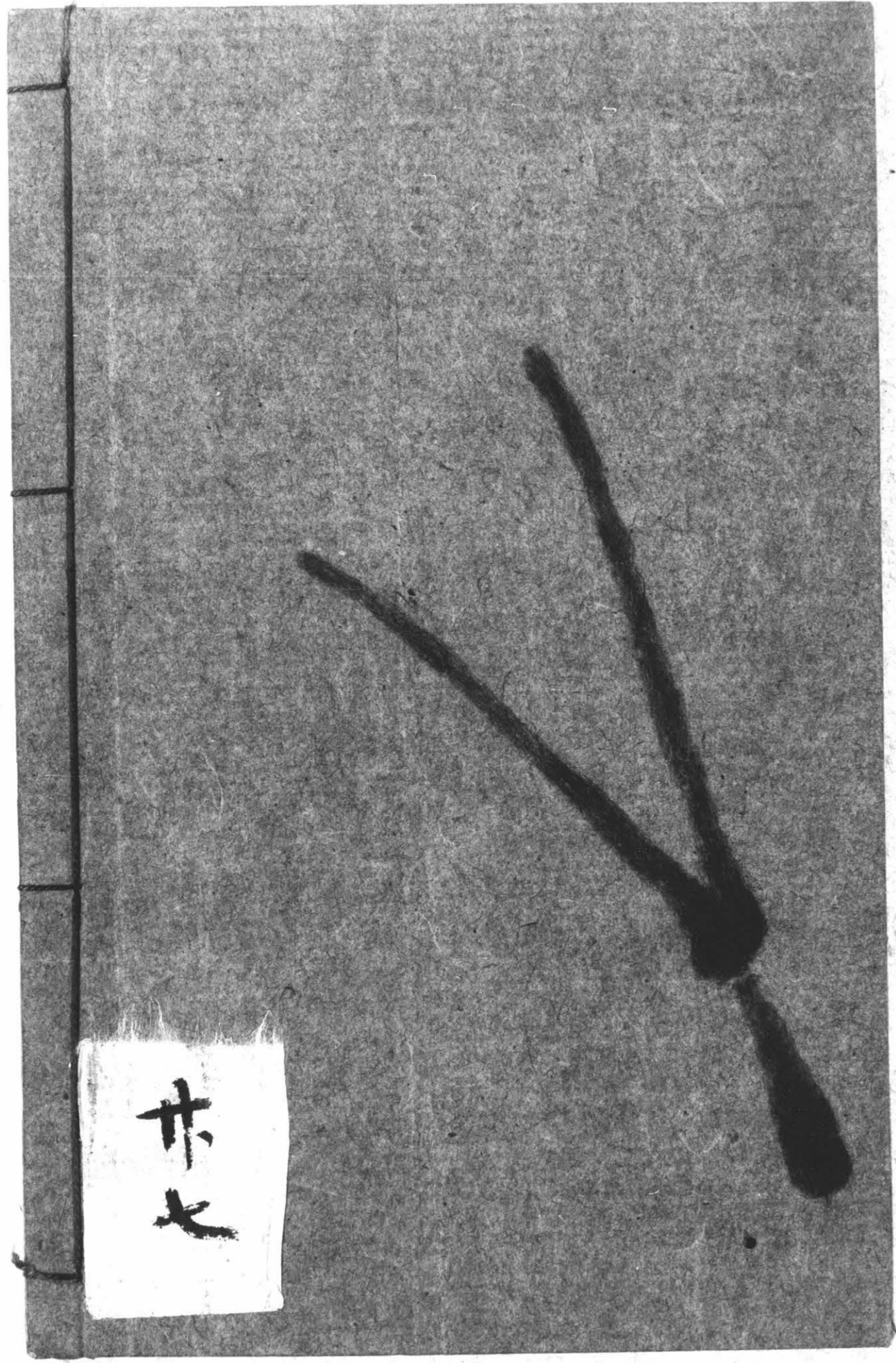
又
跋尾層崖抱夕暉。芙蓉雲外幾迴圍。
誰吟三笠海。縮影猶收扇骨微。

あはれの仲を告ぐるらんうして日本のことをとてやうてよきし七
けしきもこの山とてふはざらんかたをくりにの
白蛇山のつたまきはのこくわたりたりたこのつたま
あまのつたまはのこくわたりたりたこのつたま

のしし

山うづもにぬきしりも中々まりに
まりに

九州大學圖書印



本七